

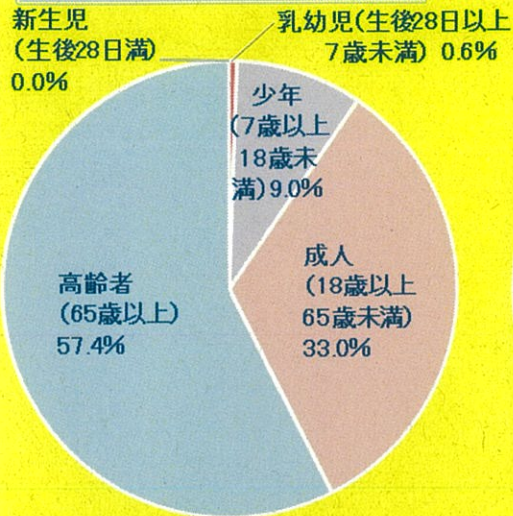
- ・熱中症による救急搬送人員の年齢区分別では、高齢者が半数以上を占めています。
また、傷病程度別では、全体の約3割の方は入院（重症・中等症）が必要でした。
- ・発生場所別では、住居（敷地内全ての場所を含む）での発生が約4割を占めています。

※仕事場①：道路工事現場、工場、作業所等 仕事場②：田畑・森林、海・川等（農・林・畜・水産作業を行っている場合のみ）
公衆（屋内）：不特定者が出入りする場所の屋内部分 公衆（屋外）：不特定者が出入りする場所の屋外部分

熱中症による救急搬送人員の内訳（令和6年）※5～9月の調査集計

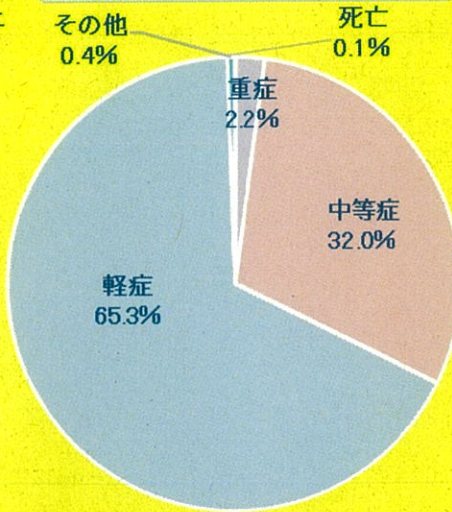
【年齢区分別】

高齢者が半数以上を占めています。



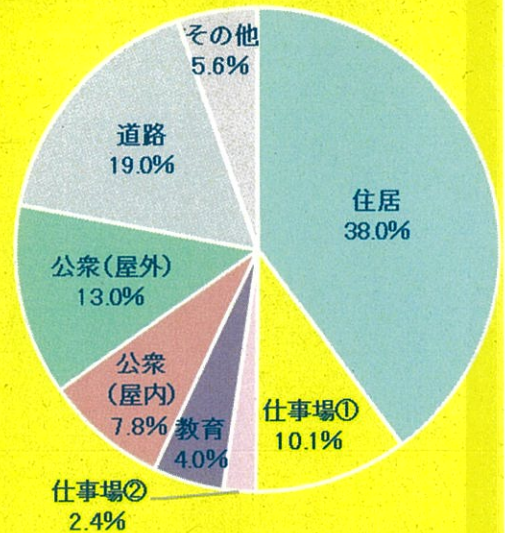
【初診時における傷病程度別】

全体の約3割の方は入院（重症・中等症）が必要でした。



【発生場所別】

住居（敷地内全てを含む）での発生が約4割を占めています。

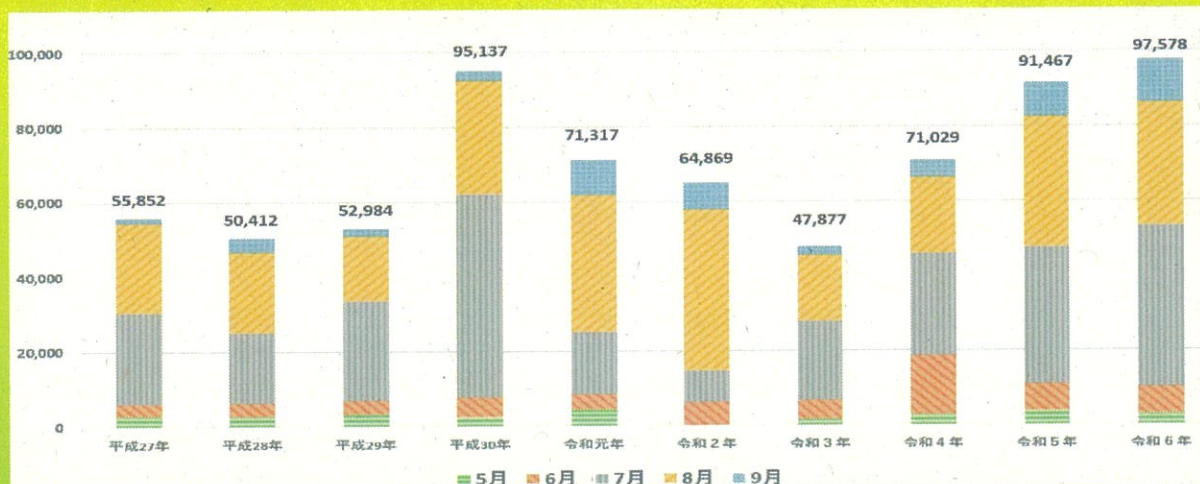


(注) 端数処理(四捨五入)のため、割合・構成比の合計は100%にならない場合がある。

令和6年は9万7,578人の方が熱中症により救急搬送され、平成20年の調査開始以降、最多を記録しました。

熱中症による救急搬送人員の増加の要因として、気温や湿度等の上昇が関係していることが分かっています。特に、梅雨明け前後の暑さには、最も注意が必要です！！

熱中症による救急搬送人員（平成27年～令和6年）※5～9月の調査集計（R2年は5月集計なし）



◆ 消防庁では「夏期における熱中症による救急搬送人員の調査」の速報を週ごとに公表しています。

URL: <https://www.fdma.go.jp/disaster/heatstroke/post3.html#heatstroke01>

参考：環境省「熱中症環境保健マニュアル」

http://www.wbgt.env.go.jp/heatstroke_manual.php



消防庁

FDMA
防災のために

<https://www.fdma.go.jp/>

